

## 第87回麻布獣医学会 市民公開講座

## 地域レベルでの地球環境問題と高まる食・健康リスク

嘉田 良平

人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 教授

環境問題とならんで、食料問題は21世紀前半における人類の最重要課題と位置づけられている。主に二つの理由からである。ひとつは、第二次大戦後の驚異的な農業技術進歩にもかかわらず、世界の栄養失調人口（あるいは飢餓人口）はいっこうに減らず、最近、ついに10億人という大台を突破した（FAO2009年推計）。もうひとつは、食料生産に対する地球温暖化、その他の気候変動の影響、バイオ燃料向け農業生産との競合、感染症など新たな食料リスクの拡大が顕在化しつつあり（食・健康リスクの拡大）、将来に向けて暗い影をおとしている。

農業技術の進歩は食糧増産に大いに寄与したが、他方、化学資材の多用、土壌侵食や水質汚濁、地下水の枯渇、食品安全性に対するリスク増大など、さまざまな問題を世界各地で引き起こしてきた。とくに21世紀に入って、食の分野には新しい困難な要素が加わった。次の三つの条件変化に注目したい。

第1は、地球温暖化による食料供給面への悪影響である。特にその影響は貧困層に対してより大きな影響をもたらす。地球温暖化を中心とする気候変動により、気温の上昇だけでなく降雨パターンが大きく変化し、農業生産は大きなダメージを受けることになった。

第2は、食料のバイオ燃料への転換である。1990年代後半からバイオ燃料用のプランテーションが地球規模で急速に拡大し、食料供給を抑制するのみならず、生態環境を破壊するという副作用をもたらしてきた。バイオ燃料は食料問題とともに環境問題を人類に突きつけている。

第3は、食品安全面でのリスクの拡大である。

O-157（腸管出血性大腸菌）、鳥インフルエンザ、BSEなど、食に深く関係する感染症の国際的な拡大が、食品のリスクを増大させつつある。しかもその被害は、アジアを中心に拡大しつつある。食品の冷蔵・冷凍技術の向上に加えて、経済のグローバル化によって食品リスクはあつという間に国境を越え拡大する。

このように、食料の安全保障はまさに量と質の両面から揺らぎつつある。農業と環境とのかかわりについて、今後、次のような見直しが必要ではないかと私は考えている。

1つは、農業生産技術のあり方の総点検であり、その「安全証明」が求められていることである。健康な土や水が健全な農産物を作り出し、それを食することで人間は健康になれるのだという関係性を明確にすることが大切であろう。

2つ目は、地域の足元から農業と環境のつながりを見直したい。川下側あるいは消費者との連携、協力は不可欠であり、また、地場産の農産物を適正に評価するシステムが必要となる。それは産地側からみれば、独自のマーケティング戦略が重要だということの意味している。

3つ目は、環境問題を食生活の視点から捉えることの意義である。農業の問題をわれわれの栄養や健康とのつながりの中で、食品の安全・安心を足元の農業のあり方と関連付けて捉えることの大切さを強調したい。食・農・環境という3つの連鎖の中から私たちの健康を考えたい。そして足元の農業を見直すとともに、地域環境や生物多様性という価値を顕在化させたものである。